

横浜市環境創造審議会 第4回 基本政策部会 会議録	
日 時	平成24年9月25日(火) 14時30分～15時30分
開催場所	横浜市開港記念会館(2階 9号会議室)
出席者	進士五十八、織朱實、亀屋隆志(3名)*敬称略
欠席者	後藤ヨシ子、小堀洋美、佐土原聡(3名)*敬称略
開催形態	公開(傍聴人 なし)
議 題	(1) これからの環境行政のあり方について
決定事項	—
議 事	<p>開会</p> <p>議事</p> <p>(1) これからの環境行政のあり方について</p> <p>(事務局) 資料の説明</p> <p>(進士部会長) 資料としてよくまとめてあると思います。</p> <p>(事務局) 本日は、資料3、4、5について主にご意見をいただきたいと思います。本日お休みの佐土原委員と小堀委員から事前にいただいたご意見を紹介します。</p> <p>(佐土原委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料3、環境の取組は着実に進んでいることが伺えます。全体としてどこへ向かっていくかをビジョンとして提示した方が良いのではないのでしょうか。 ・横浜市だけでなく、近隣の自治体との関係を意識することが必要と考えます。 ・様々な事業にITの視点を入れてはどうでしょうか。それにより、市民が楽しく取り組めるのではないのでしょうか。 <p>(小堀委員からの意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料5の2ページ、Q9、地域の環境活動に「参加したことはあるが今はしていない」という人の比率がやや高いため、理由について背景を探り、対策を取ることはできないのでしょうか。 ・取組の評価が○◎などで示されていますが、環境にどの程度貢献したのかが分かる評価軸が別にあっても良いのではないのでしょうか。 ・平均気温が2度上昇、二酸化炭素が450ppmを超えると、生物多様性の機能が失われる等の議論があることを踏まえ、生物多様性と地球温暖化が別々の問題ではない、関連しているという視点での議論が必要ではないのでしょうか。 <p>(進士部会長) 小堀委員のご意見の通り、生物多様性と地球温暖化の問題は、相互に関連していると市民に理解してもらうことが重要だと思います。</p> <p>(亀屋委員) 資料3、全体として計画に基づき、取組を着実に進めていることがわかります。</p> <p>地球温暖化対策の目標値は二酸化炭素排出量-25%ですが、現状は+14%です。それにもかかわらず、評価が○となっていますが、これは気になると</p>

	<p>ころです。</p> <p>「市民の目線で」ということを意識して、新たな「横浜市環境管理計画」において目標を掲げたはずですが、この取組実績報告は必ずしも市民目線での記載が少ないように感じます。今後、取りまとめで足りない部分は補っていく必要があります。</p>
(織委員)	<p>亀屋委員のご意見の通り、地球温暖化対策の箇所の書きぶりは工夫が必要です。震災以降のエネルギー施策を横浜市としてどう考えているのか、長期的なエネルギー政策と絡めて、横浜市として原子力エネルギーの代替を含めてどう考えているか、という視点が入ると分かりやすくなると思います。従来 of 延長ではない、地球温暖化対策を示していくことが必要だと思います。また、地球温暖化対策を進めるためには、ライフスタイルの変化が必要ということをも市民に伝え、問題意識を持ってもらうことが大事です。横浜は先進都市として、「知っている市民」から「行動する市民」となるように、市が支援していくことを示してはどうでしょうか。</p> <p>どうすれば市民参加が増えるのか、どうすれば市民参加が定着するかということを考えて、仕組みを提示できると良いと思います。</p>
(事務局)	<p>資料 3 は、昨年度の取組の速報版という位置付けです。本日のご意見に基づき修正を加え、「横浜の環境」でまとめて公表します。より市民に分かりやすい内容にしたいと思います。</p>
(進士部会長)	<p>評価基準については、どこかに記載がありますか。</p>
(事務局)	<p>資料 3、4 ページに示している評価基準に従い、各担当課が取組実績に対して自己評価を行っています。</p> <p>地球温暖化対策に関する取組については、全体で○という評価をしています。</p>
(進士部会長)	<p>各項目の全体で評価を行うため、全て○か◎になってしまうのだと思います。事業ごとに実施しないと正確な評価は難しくなります。また、環境の取組はすぐには成果が出ないものもあり、単年度で評価すべきかどうか課題です。これらの点をどうするか議論しておく必要があります。まずは、何のための評価かということをはっきりさせることが先決です。事業毎の評価であれば、来年度予算等にフィードバックする上で有効だと思います。</p> <p>この評価形式は以前からあったのですか。</p>
(事務局)	<p>新たな「横浜市環境管理計画」策定後に導入しました。</p>
(織委員)	<p>外部評価がない状況で、評価で×が一つもないというのは気になります。</p>
(進士部会長)	<p>評価方法については、再度整理が必要だと思います。</p> <p>資料 4 の資料名は「取組実績報告書」となっていますが、23 年度の取組の総括だけでなく、今後の展開まで記載があります。資料に示す内容を整理したほうが良いでしょう。「取組実績」と「今後の展開」の資料を分けることも考えられます。</p> <p>生活環境の項目に、他の項目にはある「平成 23 年度の主な取組実績」の記載がありませんが、記載の形は統一したほうが良いと思います。</p>

	<p>資料 3 にアンケートの結果を踏まえた文章を盛り込んだほうが良いと思います。アンケート調査結果の分析と取組実績報告書の作成を分担しているからかもしれませんが、相互の関係が悪いと感じます。アンケート調査結果を踏まえることで、市民意見を反映した取組実績報告書になると良いでしょう。</p> <p>資料 5 のアンケートの速報版は公表するのですか。</p> <p>(事務局) 今の形のままで公表しません。分析を加えてから公表する予定です。</p> <p>(進士部会長) 資料 5、調査結果の概要に今後の取組の記述がある設問とない設問があります。全体を総括し、今後どうする等を記述すると良いと思います。記述するレベルを揃えることが必要です。</p> <p>多くの市民からいただいたご意見としてアンケート調査結果を取組実績報告書等に積極的に生かしていただきたいです。そうすることで施策にリアリティが生まれてきます。</p> <p>環境に関する個別計画は充実しています。そのため、環境管理計画は、バランス良く全体的に環境に関する取組を推進する指針という役割を担います。環境に関する取組の強みや弱みを把握し、現場の担当者にフィードバックできると良いと思います。</p> <p>(事務局) 資料 5 はアンケート調査結果の速報です。横浜市の環境に関する取組の進捗とアンケート調査結果を合わせた分析を行った後に公表したいと思います。</p> <p>資料 3 の取組の評価ですが、個別に見ると○△×など様々になりますが、総合的にみると、そこそこできているという評価となり、○となっていています。個別に取組の進捗を把握し分析する必要はありますが、どのような形で取組実績報告書に示すか、庁内で検討したいと思います。</p> <p>(進士部会長) 無理に○×形式で評価をする必要はないのではないのでしょうか。近視眼的になって評価疲れしてしまうことも懸念されます。機械的な評価を率先して行うメリットがあるかも考えてみる必要があります。</p> <p>評価を行う項目、ユニットの大きさも検討が必要です。</p> <p>資料 3 では、市民に対して、この項目はここまで進んでいますという情報提供ができると良いのではないのでしょうか。</p> <p>(織委員) 評価について、進士部会長と同意見です。ISO14001 のように定量的に評価できるものだけであればこの形も良いかもしれませんが、定性的なものや単年度で成果が出ない取組も含めて評価を行うと、なぜ○なのかという疑問が出てしまいます。</p> <p>(進士部会長) 評価として×は付けづらいでしょう。環境施策のように全体を取り扱う場合、ダイアグラムのような全体のバランスでの表示を考えても良いかもしれませんが、「ここが進んでいて、ここが遅れている」ということが、環境に関する取組全体の中で分かって良いのではないのでしょうか。</p> <p>○と◎しかないとかえって評価自体を疑われる可能性があるように思います。</p>
--	---

	<p>取組への市民参加の増減、市民意識の変化等は、環境政策との因果関係が考察できる場合、評価に利用することは可能だと思います。</p> <p>(亀屋委員) 評価が難しい取組もあると思います。また、行政から施策として提示しても市民の反応が少ない取組もあると思います。</p> <p>市民のイベントや取組への参加数、アンケート調査結果等から評価することも考えられますが、市民評価を加えるとなると△の評価が増えることになるかもしれません。</p> <p>行政施策としての取組を中心に公表する場合は、プラスの部分に絞った紹介になっても良いのではないかと思います。</p>
	<p>(進士部会長) 資料4、人・地域社会、経済、まちづくりと市民生活の重要な点と環境との関わりを示したことは、新たな「横浜市環境管理計画」での新しい視点です。エコノミーとエコロジーのバランスが大事だと思います。取組実績報告書において、新しい視点の分類ごとに取組を紹介するのは良いと思いますが、横浜の環境政策はこのように動き、ここまで進んできたということを市民に分かっていただけるような文章があると良いと思います。例えば、市長が各種団体を訪れた時に、庁内で実施していることを紹介する際に利用できる内容、各種団体に協力を求めるべき課題が整理された内容をイメージすると良いと思います。</p>
	<p>(亀屋委員) アンケート調査で新規設問として、ツイッターが取り上げられていますが、横浜市としては何を目的にツイッターの利用を行っているのでしょうか。</p>
	<p>(事務局) 現在はイベント告知や特定のイベントの時に集中してツイッターを利用して情報発信を行っています。また、環境創造局だけでなく局をまたぐ情報を発信しています。</p> <p>ツイッターは若い人が多く使っており、広報紙では情報が届かなかった若い人に情報を届けることも目的の1つです。</p>
	<p>(進士部会長) アンケート調査結果を踏まえて、世代別で情報収集の方法に違いがあり、この違いを埋めるためにツイッターが有効である、という説明ができれば説得力があります。本日の参考資料が環境政策を検討する際の参考資料になると良いと思います。</p>
	<p>(事務局) ツイッターは今年度から始めました。広報媒体としてどの程度の効果があるかを検証する必要があると思います。</p>
	<p>(織委員) ツイッターや SNS 等は利用が手軽であるため、多くの自治体で広報媒体として試してみようとの動きがありますが、その危険性も十分に認識した上で利用すべきです。例えば、イベント等で市民の顔のわかる写真をアップロードして問題になることがあります。</p> <p>広報媒体としては誰が発信するのかという点も重要です。発信主体に魅力がないと発信力も小さくなります。以上の特性を認識した上で利用していただきたいと思います。</p>
	<p>(事務局) リスクを考慮してツイッターで情報を発信する際は、情報のスピードは遅くなりますが、庁内での決裁後に発信しています。</p>

	<p>本日のご意見を踏まえ、環境創造審議会に示す本部会の報告書案を作成します。</p> <p>(進士部会長) 網羅的でなくて良いので、アンケート調査結果を分析して、環境政策に反映できると良いと思います。アンケート調査を環境政策に反映することにより、市民の行政への信頼アップにつながると考えられます。また、アンケート調査結果を踏まえた取組であれば、市民も協力しようという気持ちになるのではないかと思います。</p> <p>是非、本部会の報告書案を工夫してほしいと思います。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>1. 資 料 資料1：横浜市環境創造審議会基本政策部会委員名簿 資料2：これからの環境行政のあり方について(平成23年7月5日 第14回横浜市環境創造審議会資料) 資料3：平成23年度新たな「横浜環境基本計画」取組実績報告書 資料4：平成23年度新たな「横浜環境基本計画」取組実績報告書【概要】 資料5：平成24年度環境に関するアンケート調査の結果について【速報版抜粋】 参考資料：市民・企業アンケート調査の結果について</p> <p>2. 特記事項 なし</p>